

## インタビュー してきました!

### 安佐南区 復興連携 センター



里本 尚之さん

安佐南区復興連携センター  
登録ボランティア

#### Q1 災害ボランティア活動を 始めたきっかけは?

自分が勤めている会社で災害ボランティア活動に参加することになり、安佐南区災害ボランティアセンターへ行きました。

実際に活動した時、被災した地域では子どもから高齢者まで、休むことなく、土砂撤去の作業等復旧活動をされていました。その姿を見たとき、大人である自分のんびりしてはいけなと感じ、災害ボランティア活動をしようと思いました。

#### Q2 災害ボランティア活動の 経験は?



今回初めて参加しました。

これまで自分の中で「ボランティア」というのは、すごい人がやるものだ!と、ボランティアに対する敷居の高さを感じていました。しかし、活動に一步踏み出すと、とても垣根が低く、特別なものではないと感じました。

今では、自分自身が「ボランティア」の敷居を高くしていただけないかと思っています。

また、活動現場は、ベテランのボランティアリーダーが、適度な休憩をとったり声かけをするなど全体を見てくれているため、初めてのボランティア活動も安心してできました。

#### Q3 災害ボランティア活動で 最も心に残っていることは?

高齢の女性のお宅へ土砂撤去に行ったとき、最後にボランティア一人一人の手を握って、「お兄さんみたいな人がおるんなら、日本の未来は絶対大丈夫じゃね。本当に来てくれて嬉しかった。」と涙ながらに話してくださったことが印象に残っています。その時いただいた言葉が私自身の心の奥深くに刻まれました。

この出来事から、自分が災害ボランティア活動に参加する意味を感じ、今でも活動を続けています。

#### Q4 ボランティア活動を今でも 続けられる理由とは?

「ボランティア活動」を自分のできるときに行なっているからです。

以前、活動中に、「来週自分の地元でまつりがあるけど、同じ日に災害ボランティア活動があるからどうしようか迷っている」とメンバーに相談したことがあります。その時、「自分の家族、友人などプライベートを大切にしないと、心も身体もきつくなるよ。空いた時

昨年8月20日の豪雨災害からボランティア活動を1年以上続けてくださっている里本さん。現在、土砂出しの活動はほとんどなくなりましたが、床下に入った土砂に気づかなかつた方や、遠慮されていた方などから土砂出しの依頼があります。先日も、安佐南区内の土砂撤去の活動に参加してくださいました。とても明るく、優しい雰囲気の里本さんの周りには、たくさんのボランティア仲間がいっぱいいました。また、活動現場でも、周りに声かけをしながら活動される里本さんに、安佐南区復興連携センタースタッフや、ボランティアの方も大きな信頼を置いています。

昨年の豪雨災害をきっかけに災害ボランティア活動を始められた里本さんにお話を伺いました。



間に、自分の生活に余裕があるときに、できる支援をすることが大切だよ」とアドバイスを受けました。

それからはプライベートを大切にしながら、できるときにお手伝いをさせていただいています。

#### Q5 今回の災害をきっかけに ご自身が得られたことは?

安佐南区復興連携センターに何回か行っているうちに、他のボランティアや復興連携センターのスタッフと顔なじみになり、話す機会が増えました。活動に来られるボランティアは、同じ想いを持っているため、この活動をきっかけにつながった方が多く、一緒に食事に行くこともあります。

皆がいるから、今でもこの活動を続けることができます。



## 平成27年度 大学と社協がすすめる ボランティア活動応援会議

共催：広島県社会福祉協議会・広島市社会福祉協議会

7月6日、県内の10大学の職員(13名)と21市区町社協の職員(22名)が南区地域福祉センターに集まりました。

学生に、地域づくりに関わってほしいと望む社協と、地域での活動に取り組んで欲しいと思う大学が「情報の伝達」をテーマにグループワークを通して意見交換を行いました。

この意見交換では、学生にボランティア活動を広報する際に、社協から大学へ伝えきれていなかった情報に気づいたり、学生の活動の様子を社協から大学に返すことの重要性などの意見が出ました。



▲情報の伝え方について考えるグループワーク



会議の後半部分では、広島県社会福祉協議会が行っている「大学と社協がすすめる若い世代の担い手づくり事業」の取り組みについて紹介がありました。

説明者は、昨年度この事業に取り組んだ安芸太田町社協と広島修道大学、広島文教女子大学。学生が地域に溶け込み、地域の活性化について企画し、取り組みを行っている姿を説明していただきました。

短い時間でしたが、今回の会議で多くのつながりができ、学生が様々な場所で地域課題に取り組んでいく環境が整ってほしいと思います。

◀大学と社協がすすめる若い世代の担い手づくり事業の紹介

## 大学のボランティア窓口を紹介します

### 広島修道大学

今年3月にオープンした協創館(8号館)地下1階の「ピア・カウンター」を訪問しました。

ピア(Peer)とは仲間を意味し、「ピア・カウンター」は、学生が大学生活を送る中で、自主的に様々なピアと関わりながら、社会で生き抜くための基礎力を高める活動(ボランティア活動など)を支援されています。

ピア・カウンターの中寿賀さんから、「学生にボランティア活動は決して崇高で特別な活動ではなく、自身に身近な活動であるという意識を持ってもらい、多くの人に活動してほしい。」という思いをうかがいました。



相談窓口の中寿賀さん

### 広島文教女子大学

今年6月、大学内に開設された「ボランティアコーナーぶらボラ」を訪問しました。

「ぶらボラ」は、ボランティア募集のチラシや社協のボランティアだよりなどの情報を貼った掲示板で仕切られた場所であり、落ち着いて情報紙を読んだり、学生の相談を受けるための机が設置されています。

地域連携室の金子さんから、「福祉に関わらず、ボランティア活動を通して学生自身の世界が広がってほしい。」という思いの反面、「せっかく学生が何かしたいと相談に来て、紹介できる情報が少ない。」という悩みもあるそうです。



相談窓口の金子さん(右)